

「市民感覚」を大切に、 安全・安心を誇れる街を 目指して



札幌市消防局長 大島 光由

札幌市は、明治2年（1869年）の開拓使設置以来、北海道開拓の拠点として発展を続け、今や195万人を超える全国5番目の都市に成長しました。民間の調査による「全国市町村魅力度ランキング」では常に上位に位置（昨年は函館市に次ぐ全国第2位）するなど、魅力的な都市として国内で高く評価されており、市民の「札幌への好感度」も94%と非常に高くなっています。

また、平成26年中に札幌市を訪れた観光客は約1,300万人に上り、外国人宿泊者数も中国や台湾などアジアからの旅行者を中心に140万人を超えて、過去最多を記録しています。来年2月には、アジア全域の国と地域が参加する総合国際スポーツ大会である冬季アジア札幌大会が開催されるほか、ラグビーワールドカップ2019の開催や2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けた取組を行うなど、国際的なイベントを契機とした観光客誘致を進めており、今後、更に多くの外国人が札幌市を訪れると予想されます。

こうしたことから、急な病気やけがの際の電話相談窓口である「救急安心センターさっぽろ」を所管する保健福祉局と連携し、本年10月からは24時間体制で通訳者を含めた三者通話を行うことにより、外国語（6か国語）による119番通報の受付体制を充実・強化する予定です。また、現在、消防庁消防大学校消防研究センター及び国立研究開発法人情報通信研究機構の研究開発に協力し、冬季アジア札幌大会までに全救急車に翻訳アプリを備えたタブレット端末を導入する予定であります。

限られた経営資源の中で多様化・複雑化する災害への対応力を確保するためには、より効率的・効果的で、将来を見据えた持続可能な消防部隊の運用体制の確立が求められていることから、救助と消火の任務を担う多機能型救助隊を創設するほか、より効率的な排煙・排熱活動を行うための加圧排煙機や消火戦術の幅を広げるための圧縮空気発泡装置を搭載する車両の増強を進めています。

また、市内の約7万件の防火対象物に対して定期的に査察を執行し、法令違反の未然防止に取り組むとともに、法令違反がある建物に対しては、火災時の人命危険性に応じて査察の執行順位を設定するなど、継続的かつ戦略的に早期是正を図っています。

さらに、関係業界や各種団体との連携も進めており、公益社団法人北海道宅地建物取引業協会と協定を締結して、消防用設備の点検実施率の向上を図っているほか、観光協会や商店街振興組合等と協力し、避難障害となる物品の除去等を目的としたクリーンキャンペーンを行うなど、地域ぐるみの自主的な防火安全体制の取組を進めています。今年度からは、新たにホテルや旅館、就寝を伴う社会福祉施設で消防法令上優良な施設の情報について、札幌市公式ホームページを始め、関係団体のホームページからも広く閲覧できるよう協力体制を築いているところです。

このように、消防局では「安全・安心を誇れる街さっぽろの創造」の実現に向けて様々な施策に取り組んでいます。今後とも多様化する消防需要に的確かつ柔軟に対応するため、常に時代のニーズに沿った施策・事業の重点化とその展開を図るとともに、職員一人ひとりが「市民感覚」を大切にしながら、「安全・安心」の提供という市民サービスのより一層の充実を目指していきます。